武江年表

自延享元年
至明和六年

乙

内閣文庫

和書	
類	三二七五九
號	
冊	八
函	一四一
架	五

210
明

内閣文庫

番號	和 32759	
冊數	8 (5)	
函號	141	86

© Kodak, 2007 TM: Kodak

国立公文書館
National Archives of Japan

関210

武江年表巻之五

延享元年甲子　二月十八日改元

二月朔日より湯島天満宮境内ゆそゝ下野岩船地蔵開帳○同日より市谷八幡宮地主茶木稲荷社開帳○二月五日夜子上刻天中央より少し西の方へ如此星現る加賀ゝとゝふ○二月より護国寺にて武州御嶽山蔵王権現開帳○同月より浅草寺内松尾明神開帳○二月十五日より三日の間中村座二幕芝居興行の初年より百二十一年の壽狂言興行○矢口新田弁財の碑を立南郭文を撰ス○四月三日儒師山本北山卒　名信一柳斎　法性寺に葬

○弱辺新日山王宮営建○四月朔日浅草光感寺尚麻製毛曼荼羅をねせーむ○四月より護国寺より上野雄氷郡松井田金剛寺十一面観世音

雄氷定光守本尊 開帳○(二月朔日より氷川八幡宮皆まで 六月十三日より田向院まで) 伊勢白子子安観世音開帳○夏より冬まで法華風邪流行○六月十五日 神道学者 岡田盤秋卒 名正利 孫九郎 七十八才 浅草

行安寺 ホ葬ル ○七月朔日より田向院にて瑞金寺徳院大仏腹籠 弥陀開帳○七月

九八幡宮内氷室明神開帳○七月朔日より芝神明宮内にて稲荷光明寺

十一面観世音 俵屋太守作 開帳○七月九日 書家山本惟命卒 孫忠左衛門 三田竜泉寺ホ葬

○七月晦日 俳人中川宗瑞卒 幡随院ホ葬ル ○七月 海中魚多死生貧比魚

も同じく死せり○八月八日 風不動堂内にて大磯切通し梅林寺身代

地蔵堂開帳○九月廿一日 山谷町本性寺自雲霊神 日蓮 桜川辺郡小濱の産若

白髪とゆふ人江戸ホトリ氷川の商家岡田某ホ葬そしけるが心ホ乱る故其家を絶しめて

孫右衛門と改む法花を信じて常に読経唱歌に三十八所をうまきふるまひ志しく死後

祭るよろて秋山自雲灵神と祭る ○九月廿七日金雕之土仏安親卒 七十余才 通称弥八郎

○金師浄林卒 月日ふ詳

延享二年乙丑　十二月固

二月朔日より茅場町茅師焼肉にて信及蓮池院流行本地勝軍ム動堂開帳

○二月十日亀戸天満宮近藤の在家より火出く元祖信祐が建立せし社殿以下一宇

も残らず焼亡せり○二月より渋谷長谷寺大仏観世音御首仏開帳○月十一日

より田向院にて上州狐塚山法ち観世音開帳○二月十二日朔五時巳千駄谷より

出火青山残らず焼田麻布三軒家本村氷川社吾福寺門前廣尾白金村三田伊

四子白金瑞聖寺猿町車町ち倫南小石川迄焼亡 武家町並駿〻 翌十三日 焼亡ス

鎮る事湯如来ホ上る但唱が他大六の仁王ち石像并地蔵ち石像も

焼失て北方ホ 白金細川侯乃屋敷の辺伊四子の 辺八百三十年目にその新焼と云ふ ○四月朔日より浅草寺

ホて常陸小金井紗徳ち日蓮上人開帳○月日より田向院にて摂州茶碓山禁一

仏ち圓光大師引接弥陀如来開帳○月日より牛込四谷寺にて相州妙伝ち星

降梅日蓮上人像開帳○同日より御義前八幡宮内にて信州戸隠山建部明神不動尊開帳○同月二日より本所法華堂内大佛勧進にて観音大士二月堂観世音弘法大師開帳○四月より護国寺蟹清水出現茶所自坊にて開帳○四月十八日書家関口黄山卒名忠貞小日向金剛寺

延享三年丙寅

二月朔日より隅田川木母寺梅若丸古墳文殊菩薩開帳○同日より雑司ヶ谷本納寺にて別所教寺休息日蓮上人開帳○二月廿九日夜四時芳樂地本願寺服武家方より出火して二番武家方一番南八町堀本八町堀茅場町小網町大坂町堺町葺屋町芝居町村松町櫓町此辺武家方多し浜町河岸八丁堀小泉町横網町松平阿波守屋敷辺武家方浅草より小塚原にて延焼翌朝日夕七ツ時鎮る浅草ちゐ米例の坊舎のみ未刻焼る○二月晦日昼本所笑山寺横堀より出火大風辺の寺院多く焼亡○三月より浅草寺内松平院大六角大天曙義像開帳○書家赤井得水卒称文次郎伊勢町住○四月朔日より増上寺常照院芝浦出現弘法大師開帳○四月より湯島天神内にて常州麻布護摩堂本尊五大明王開帳○下谷合羽屋玉泉院釈迦如来開帳○四月島丸光栄公関東江下向御道の記あり[illegible]出の浜の記と云ふ一巻○浅草池の坊善寺にて駿河蓮永寺日蓮上人鏡彫開帳○同日不動尊焼内にて下総菊師正覚寺不動尊開帳○牛込原町法生寺にて京上野桐実松寺雨乞日蓮上人像開帳○六月十八日より六月十八日迄日延三十日浅草寺観世音開帳○同廿六日より御義前大護院

八幡宮の地愛染明王開帳○六月十四日僧師蘇江邪良卒 林陸堂四人保光明寺墓 ○七月朔日より浅草寺の地蔵菩薩開帳○七月より本新彌勒寺川上某師如来開帳

○七月十八日秋澤章弼池田利英紀伊忠孝熱海の三人浅草川を画を折て一寸七分の不動尊の像を造り大同二年空海と彫り谷中妙林寺に安置す○九月芝神明宮神主西東豊和寺天満宮菅原重保を拝せしむ○九月朔日より谷中大系寺の地大師天開帳○十月名所彩田社別当成就院本堂宮方丈殿物その外とも焼亡○事記合考写本成 柳亭永以 著

○江戸名勝志稿 抜之条著 三巻

○江戸めぐり一冊稿 本多 嘉孝

延享四年丁卯

二月朔日より浅草寺の内梅園院子育仁王尊開帳○同日より浅草新地東漸寺某師如来開帳○二月九日外桜田火事旗本屋敷の藩邸新造九十字と云○浅草八幡宮町本法寺の地安房国茶小松原繞恩寺日蓮上人像開帳○牛込七軒町成就寺日蓮上人像開帳○三月朔日より谷中一乗寺安鬼子母神開帳○小谷法養寺の地甲斐鰍沢法華寺日蓮上人開帳○三月恵悲濱島庄兵衛義堂新刑場の世話人中元寺と云○四月朔日大霜降つる○同日より深川永代寺の地大坂浄瑠璃生玉明神開帳○同日より谷中妙法寺の地中山日蓮上人像開帳○同日より廿日迄押上実蔵寺薬師菩薩開帳○三田寺町林泉寺の地奥州賀美郡牛島村住生寺光大師開帳○牛込神楽坂弁天の地親世寺不動尊開帳○小石川若雄寺引地義尊開帳○高輪正覚寺弥陀如来開帳○猿江弘願寺成就院社地 猿江恵心僧都の建立 神田明神北隣の移る 寺号は安永中元の猿江にあり○六月十七日僧師常野兼山卒 七十余名道号 谷中妙林寺墓 ○六月二日俳人小川破笠卒 八十余名宗有 林平助俳諧の師匠 ○六月廿七日俳人歌曲変遷志卒 七十三名渉道 報恩寺墓 ○

宮殿の造営あり○八月廿日太宰春台卒（八十八歳　称弥右衛門　谷中天現寺に葬る）○春川秀蝶花宮社（根岸）の寄進絵馬あり○七月朔日より回向院にて羽州湯殿山注連寺大日如来開帳○同日より回向院にて上総国小田喜大原寺弥勒如来開帳○十月廿日俳人菊岡沾涼卒（六十余才名房杉号朱山崖下菴称茶毘　神田紺屋町住　紀州侯子世臣）

なやみし（俗諺志中外蒙遊兵記）

いるまも有益の史（男政逸恒足軒と号す）

此年間記事

真先稲荷社延享三四年のころより諸人参詣繁栄せり○谷中宝泉稲荷の赤鳥居

○風閣（寺山派修験　湯殿大神中坊より聖堂に移る）

○延享二年の頃江戸の流行物を集めるに集めるの時陳風と歌を時に雷門人及

故称果然（といへる人の編）（西川考合）

（以下次のページ）

△浮橋（遠州の山水也）△雅司谷今武御物△同百度石△同風車△志道軒講釈△中堅

桃園△冨ヶ岳吹矢△下谷広小路香具△女角力△紙細工良玄湯△辻宝引△

象股引△券角力△大石俵紙△聾道石△竹村嘉保△宝泉稲荷△南西芋

△雷鳥之介相撲△芝鉄切形△赤坂奴△正徳の紀年△薩摩芋（元文以来のものなれば此時代なり）

珍重せし△回向院子陳雲△池の端梔子△浜川筑前麦（伊勢屋）△杜丹屋敷

花廿日半迄白とやべし△海老蒔蛤蜊麦△宝石下柚木市△浅草園十良文

わかし初花とあり

△湯島油揚△伊四子麩△霞西沢中△山下敬称（一下統子屋は作やぶれ蔵牧童　岡中水花園と云陵墓あり土

故の教）△中村孫貧物（貧衣業　未考）△吉原粉菓△稲荷社傍生（未詳）△麒麟の助（軽業）

△浜川帽子△兼平楊△易俵紙（未詳）△鳥越口置△巻簾（此時代の風俗也）△豊後節

酒△芝業（若芝ふやくや鰻の別けり　神宿）△廣澤石摺△豊後節△大石猛袖口△神田社

考の者△羽織長紐△江戸川椎木（矢場）△狂言作者津打治兵衛△熊野十二所

△涼珉大夫　彩画や二ヨロクろくとなさひ山将野貴信法橋ハ水戸の画師ゴ七日の出大夫を画くゆ名あり　△八人藝　△智恵代　今ゆ文代のゆて於ゆ名の板ゆり

△馬子唄　△扇屋踊　ゆくゆ角茶屋地紙ゆ角茶屋ゆ彩を色へゆてろろ〜〜く踊ろう　△加賀帽扇　△蕃樂

地義踊　ニ分坂法安ゆ　△懐紙折　通ゆ彩名町　ゆ月若衆　△狂言坊　赤坂　△木葉餅　これゆ外ゆ

なれども絶けれがちぶく

○婦女の出ぶさしとゆ物形ゆ後一旦廃れしゆ寛政より再度行ゆる○郡内

微塵縞衣類ゆある○江戸名古屋　花菖蒲本の様芸居ありしゆ

次ゆ不廃れ大阪の我ゆ文弦とゆ残れり

寛延元年戊辰　十月閏　七月十八日改元

三月二日夜谷中瑞林寺より出火本堂焼亡　○上野山内諸坊門前町焼亡○三月十八日より魚盤親世ゆ開帳○四月より

三田墓町泉福寺某師開帳○四月廿日より魚盤下大信ゆ親世ゆ開帳

四月廿五日官醫曲直瀬君端卒　六十三才　養安院と号ス　麻布天徳ゆふ墓ス　○二月廿九日南郭の長子

温々卒　三十八才　○四月朔日より目黒祐天寺泰院如来霊宝開帳○四日より

永代ゆ八幡宮開帳○二本榎兼敬ゆ祖師開帳○浅草日蓮ゆ本所回向院

のゆ所ゆ於て奥州会津西光ゆ日蓮地義ゆ開帳○六月朝鮮人来聘　正使　洪啓禧

副使南茶孝　従事曹命采　旅館東本願ゆ　○八月十日書家馬場爽水卒　号青藍　真柱金巻升とゆふ人浅草ゆ閻王堂の額ゆ書ゆ

市谷長昌寺ゆ墓ス　○閏十月廿一日俳人姫内仙鶴卒　七十四才　○十二月琉球人来聘　正使　具志川子

○奥澤村浄名　九品仏　焼失

同二年己巳

正月廿三日長崎流茶道祖長崎耕雲卒　六十二才　林氏ゆ出ス　麻布浄林ゆ墓ス　○二月廿一日儒師桂

山義樹卒　号彩岩　林氏ゆ弟ゆ　漢文彩　姫路威光院ゆ墓

猴池ゆよゆて死ゆゆる人

○深川御船蔵火災。古川某師如来安置・品川寺水月観音・三の橋美人坐る観世音・秋葉権現・四谷宗成院・鹽踏地蔵・法善寺・浅草寺・新田明神・泉住院・南鐐寺・大天・浅草寺内日蓮院・荒澤不動尊・門松雲院・火・六兵衛大天・暖簾寺・池の坊・青竜・池の坊・見井・不思議・他弁・大天・文政九戌の年の冬、谷中長運寺祖師鬼子母神・三田・町田・浅草院・弘法大師・門和歌海・不動尊・右の内自分不居・村の開帳。池より板橋へ渡り六月廿三日より渡る

○本妙寺・梅若・九二十七・五千日供養○二月九日より田町院・於て常陸国河内郡大徳村宝積寺子安観音大天開帳○四月朔日より五月晦日迄田町院・三河国山中檀林法義寺出世観世音開帳○五月十九日・六月二日迄・麻布・妙義山権現開帳○六月五日羅漢寺中興・法先和尚寂七十三才○六月四日北村湖元卒日谷日宗寺○七月朔日より田町院・於て信濃善光寺西蓮寺・地蔵菩薩開帳○常夏中より雨繁く降て七月も晴る事なく廿五日ゐいくう大風

西北より大風吹て繁く八朔大風起る時に雨降八月十三日の暁より小風大荒となりて半迄小日向出る下谷浅草辺迄潮を出す国国に辺家を流し人を溺る江戸川通り橋々押流し小石川通大水神田上水樋通流る昌平橋流る遠橋・牛込外神田川橋々流る西国橋大橋・両国・本所川水溢る九月迄ゐつの粥時大なる○八月光物飛ぶ○雑司谷鬼子母神境内孝女くるとゐふりの麦藁を作る角兵衛獅子を売り始む○十月十八日茶人望月宗叶卒淀橋に住○新著聞集十八冊刊行中古世の中の話柄を物語る○今年江の橋弁天天神社を開帳なり江戸より東海の道まで

寛延三年庚午

二月十五日より下谷宗岩地蔵尊開帳○宮田感通寺見沙門天開帳○三月十八日より晴天十五日迄遠橋・門外晶地に於て信州加賀原観世大夫勧進能

無名あり○房州加茂村日蓮寺祖師淺草[illegible]て開帳○四月八日より七月迄芝泉岳寺釈迦如来開帳○日暮里本行寺に通灌丘碑を立箕浦山人石山猶文を撰す○四月廿三日朝星八ツ時迄西小大風西大霰降る本所辺九十名位流死

老人家を流す小川町当町八十名位筋違外神道筋花屋敷迄家根を残らず屋敷中人家多く倒れ

信濃寺不動尊開帳○七月より浅草寺本院を越後西浄寺法華院を弘智法印修開帳○七月七日儒師中尾廣徳卒称西義西窟天徳寺葬○七月十七日儒師井戸甘斎卒称新右衛門名方慈日暮里四軍寺に葬

此年間記事

延享四年三月の比より不忍池彩色を築地出来茶店場弓場講釈場お建法ゝれ繁昌し又寛延二年矢大天の島より西芽町の裏一板橋を掘折はして繁昌あふるゝて八ツ橋といひ結る八沈の軽業死亡出て

毀ち残らず○此時代より開帳場お神仏おゝび賦を立る事始れり

○江戸実砂二十帖写本成元禄の比の風俗を○享保廿年の江戸加る拾遺寛延四年の再刊恵庵子仁歩時世の商物を載られども二書共に抜ゝ抜ゝ抜出せり○偃師江戸の方言ふ山猫といひ一月ゝ七八度ゝ同じ不出世すゝ代ゝ絶ゝ○宗十郎改中ゝ出ル○寛延四年江戸図ふ天文墓祈田佐久間町二丁目三丁目の小ふあり池の端築山彩地と記り

白山河殿跡菜園と称風図古聖堂東西ふあり

寶暦元年辛未　六月閏　十月三日改元

二月十八日より護国寺親世音開帳○六月十日佛人石鶴子卒深川六万ゝ長寿ゝ墓

○三月十八日より浅ゝ寺観世音開帳享保四年より三十三年目ゝ内神仏のゝ開帳あり吉原ゝ五丁花屋敷ゝ十二桃灯

その名ゝ[illegible]ゝ小[illegible]ゝ○三月廿一日江戸大火ゝ

木下川浄光寺薬師如来開帳○同廿二日より平井村妙法寺にて成田不動
尊開帳○四月朔日より浅草報恩寺親鸞上人遠忌を修せむ○同日より
浅草寺町二丁目福院狩稲谷の開帳○同日より田向院にて甲丙若元の観院如
来弘法大師開帳○京都本満寺祖師谷中妙法寺にて開帳○芝金杉
開帳○七面大明神開帳○大師河原大師開帳○行徳山聖天宮開
帳○浅草寺町[illegible]老伝波塚不授本寺祖師開帳○河崎宮八幡宮
開帳○四月朔日より湯島社地にて猴又不授現開帳○同日より佐竹
宮八幡宮にて豆塚加茂郡景勝院釈迦如来開帳○浅草寺内二丁稲
荷にて藤倉永谷貞昌院天満宮開帳○谷中妙林寺不動尊開帳
○不忍弁才天にて常陸水戸玉里邸系寺ふね尊開帳○六月三日
時人益田窪楼卒　名伯謙字町民天美寺系庭のあるじ　白石の門人なりしとぞ○八月廿日

荷田在満東都に卒　号宇治谷　紀氏東に遊浅草金龍寺に葬る　男所孔
小沢下天卒　浅草寺に葬る　○九月晦日俳人
　　江戸に出て学を教授せ
　　ず和下の坊ともいふ
○十月十日儒師市野光業卒　字子曄　本姓藤原氏　浅草寺に葬る
○右系は女義者といふ今年より始る　扇形の寿仙といふものの始なり文政より遊廓に出来る　一説に青物市場なりとも
○再訂江戸惣庵子名所大全持行　奥村玉華編　七冊
江戸地理沿革の図巻多し明和二年の
巡考と合て一部とす
　　○南向茶話　写本成　酒井氏忠昌去

宝暦二年壬申

正月四日物茶家丹羽正伯卒　九山寺妙法院に葬る　○二月二日より三圍稲荷の神開帳
○二月廿二日より中の丁如来輪寺聖徳太子開帳○二月廿五日天満宮八百丁
十年祈願○同日より湯島天満宮・麹町平河天満宮・小石川牛天神・巣鴨
小石川天満宮開帳・亀戸天満宮へ今年社建立成て二月十九日より廿五日まで
開帳○二月廿八日より日蓮不動尊開帳○三月朔日より湯島社地にて伊豆

八丈島為朝明神開帳○四月朔日より飛戸御嶽山権現・業平天神
吾妻森吾妻権現・飛戸勇門院御記者・木母寺梅若の宮なる文殊并・飛
戸竜眼寺中嶽権現并日宮　右何れも自坊より於く開帳あり○四月朔日より
田向院まで京知恩寺田光大師利劍名号開帳○同日より牛込原町妙国寺
ふく房及小塚延寿寺祖師開帳○丸山浄心寺祖師谷中かぶる祖師
開帳○四月より麻布光雲寺大師河原清宗院地蔵并開帳○四月より
目黒寺福院延寿八幡宮開帳○五月深川三十三号堂重修○六月廿日より
他の霊物地の霊五十九軒中外家数除面引拂せらる
根岸ゑ九ゝ面名ゑ
○七月朔日より湯島社地下野那須野泉涼寺殺生石化度聖観音開帳
○同日より田向院まで武州羽生水不動ゞ長村熱釜不動ゞ八丈島子開帳
○七月十五日儒師中西淡淵卒　年二十名維章称号七郎
法上寺比中殺花院本葬○同月十日倭文子卒　年
弓丁伊勢屋平右衛門の娘ゑしてまた閑斎の門に
入て国学和歌ふ名あり深川本誓寺に葬る
餘りに長サ三尺除生物方を知らざる大江戸
泣声あり行のとも知るべし出
○八月十二日山縣周南卒　年安孫子助
○七月墨陀川千深ゑ大島りる面異四尺
○八月二日夜永代橋の北の方ゑ
表秋ゑ出
○七月護持院大破ゑ付江戸町ゞ勧化ゑ募る
○宮井土常光寺白金一引く後
子左衛門係福寺に葬る
明和二年松秀寺と改称ゑ上人宿るあり○十二月琉球人来聘
正使今帰仁王子

宝暦三年癸酉

正月四日ゑ八日大雪九日十七日十八日面廿二日雪廿日大雪廿日二月朔日
二日三日ゑ九日十日十三日十四日面十六日地震十七日面十九日大雪廿日朔ゑ
廿三日廿八日廿九日廿日面三月三日大風面暁七時より雷鳴大雷降雨時晴ゑ
候加賀　表秋　○二月朔日より羽黒山日赤不動開帳○同十六日より護国寺ふく
甲州万力村帰命院信玄寺中谷陀加来開帳○三月十六日甲州身延山祖師

所徒よ付江戸到着の日迎ひの人数品川より日本橋迄つゞく何町構中と書き
紙幟あるゝ之る　開帳掟中に　四月初日より深川深川寺にて開帳
○三月十三日より九月晦日迄薩摩外記殿あてかゝり人形芝居興行致す小金
小四郎之○四月初日より湯島社地にて武州一の宮氣川明神開帳○同日より
田向院にて武州蕉谷寺釈迦如来蓮生場新開帳○四月十日より深川永代寺
大師新開帳○四月十五日より千日堂本母寺にて開帳あり○四月より
蝋蛇を拵む細工人八幡町鍛冶甲やあり　右開帳所にて六月二日より
九月朔日より麻布流れ人形芝居○五月十二日儒師林蓼莪居士　号観澗又白主　麻布本村に葬
○六月高野坊芝居曽我祭今年より始る○六月廿一日能師松月堂法眼不南
卒　九十二才立羽子箱と云集地つゝ名域勝寺に葬
辞世　空せみちりしの裸よ戻りけり
○七月初日より浅草本法寺にて別所の
比丘師開帳○同日より護国寺にて別所我中村に送山祐信院法華如来

不動尊開帳○同二日より八日迄　葺屋町某師境内にて大坂天王寺南谷室来
尼寺聖徳太子　来年乃新　山親寺開帳　天竺高麗町花竹屋敷の仮りものを拵む　○七月晦日より田
向院にて徳川大家光親寺馬場別親世寺開帳○同十六日より浅草極楽院
奥列衣川地蔵院千手観世寺開帳○八月廿一日書家
平林惇信卒　八十八才　号静安　浴日居　称宗八郎　本所中之郷妙源寺墓所
始む　延享三年三世目享上人様より代年
上人二十二回忌に当て花笑文人碑
宝暦四年甲戌　二月国
正月廿日萩生叔達卒　名観号北渓　祖来の家弟子　三田長雲寺に葬
○国二月より元八幡宮本地佛
氷室明神開帳○同月高院にて奥州會津高巌寺国光大師開帳　○
同二月三日より出羽羽八幡宮開帳にて越後乙宝寺大日如来開帳○国二月より
永代寺にて薬師山本地観世寺開帳○護国寺観世寺開帳付宝ヶ珠せむ

○三月十六日儒師荘子謙卒　名允益　号柳庵
如来開帳○四月廿五日儒師谷口千秋卒　称多膳　殯善寺
卒　号琴堂　法華寺
○六月廿五日俳人椿井史登卒　法名雲中居士　○幡随院のて
和尚谷中三崎の勇賢山法住寺開創　其地に溝に沒より　江戸中の男女地形の土
砂を運び日々にして成就す　世俗新幡随院と云ふ○七月廿二日深川修験
羽川珍重卒　七十余歳　此の者東田の茶人にして　辞世　卒
刻月蝕　皆既　○八月十七日儒師石島正猗卒　筑波山人と号す　弱冠出家昌平黌
ありしと云ふ○十一月十六日儒師河合子深卒　号静斎　称三八　麻布善光寺
自在庵祇徳卒　押上大雲寺に葬る　辞世　空さてりとまあ〜なを降るなり

宝暦五年乙亥

二月朔日より谷中妙法寺にて互州玉沢法花寺祖師開帳○二月より護国寺

あて常州□養名立不動尊開帳○三月朔日より明日迄牛込の社頃修覆
成就と称開帳　仕組不申　修復あり○三月十三日下谷法華寺にて沈上人門弟旅立祖師開
帳○同月十五日より十九日まで田内院にて明暦丁酉正月焼死溺死の輩百年
忌に当る越法華あり○三月十六日より深川永代寺にて信州戸隠の神九頭龍
権現　顕光　開帳　この所神仏を尊ぶ神子更女の丈えあり千名をお参と
す　云ふ頭子の名を借るなり　お参とは諸人これより始まり○同日より浅草
降念寺大字利剣名号　法号　法号　朝日如来開帳○芳場町某師門にて
れ孔大山の禁子易親世音開帳○四月の頃より下総古河の恩業橋の道より
弘法大師の利益にて茶水湧出るとの俗説を信じ貴賤群集し此の水を呑
む或る門人一確ぐ九月迄に彼地に旅舎千軒程を列ぶ又石に文字現出石
より芽を出すより流言して江戸市中の乞路を塞ぐ程のあり翌月に
止む○四月朔日より田内院にて小金東漸寺開光大師開帳○四月より

青山善光寺阿弥陀如来開帳○江戸浅草上の宮毎夕天開帳江戸より来諸
多〻○八月十五夜酉戌時月蝕云々○冬米價貴騰之○十月儒師
飛名圭洲卒 名湘浅茂 墓院不葬

宝暦六年丙子 十一月改

正月十日新找木町より出火丙座芝居新焼○去年冬より米價次第
乏揚之○二月彼日より牛込久成寺上総國埴生郡妙宣寺日親延生地
經筵祖師開帳○同向院ゑと彼岸中加賀白山神影釈迦佛舎利開帳 唐
華泛虎画を掲る○三月中 裂乱吹続き度〻大災乃○四月朔日より田向
院ゑて安房國那古寺 坂東二十三番 親世音開帳○四月六日より目黒成就院鮮業
師開帳○同月より東叡山寺ゑて常陸國茨城郡稲田山西念寺宝物を拝せしむ
○同月より下谷本法寺ゑて下総平賀本土寺白毫光孔祖師宗帳○市谷

八幡宮境内ゑて強金剛寺弘法大師八幡大菩薩開帳○六月東
叡山仁王門所再建成○六月西ゑ葛川竜王寺 ゑ十八丈白山中十石光寺ゑ
廿五日仏人雨夜菴庵成卒 牛込 弘福寺ゑ葬 男女松花堂 ○六月
祖師宗帳○十月谷中修性院の庭今年より開き毎年遊観の所となる
発起高田氏庵但宗斗碑を立て九の鳥我鶏を 不二法〻八ツ目の赤〻し ひく〻庵
深川云る地 要洲寺ゑ葬 ○十月廿三日暁八代洲沼岸より出火大風ゆゑ法華藩邸数字
焼亡山下町加賀町拾十郎町尾張町辺出雲町金六町辺汐留木挽町三
十丁る地仙台藩奥平摩所藩邸辺同日九ツ時ゑ築地武家方より出火て
西本願寺地内十ヒ五ツ丁南小田原町海手迄焼亡○同日夜ゑ青山権田原
より出火て麻布辺二本榎三田の辺まで焼亡○本々新町家此辺迄風ゆ
く崩〻ものと鳴て菜蔬ゑ焼亡 ○ 作り方〻〻が町孫之改り後ゑハ料理

茶屋を出し女を招て酒を売る世人大根畑とよびあるいせり

宝暦七年丁丑

三月朔日より芝神明宮焼内ゟ近江多賀大社宮殿○三月より上野清水観世音開帳亜之雲仙寺尚徒上野清水ゟ出景清牢破の額を掲○三月十日より幸日川に善光寺如来開帳本堂修復今年成就せり○同十五日より不忍弁天天宮殿○三月より忍岩槻稲荷社北ゟ武州ゟ幡金剛寺火防不動尊ゟ出宮殿○同月朔日より田向院ゟ安房清澄ゟ虚空蔵并開帳○四月朔日より田向院ゟ越後ゟ善導寺若尊大師開光大師開帳○四月より浅草九品寺薬師地蔵ゟ開帳○永代ゟ永平山金蓮寺深川地蔵ゟ宮殿○四月より立川延寿寺冥土供水奥州仙台ゟ江戸の米價ゟ次第ゟ登揚せり○七月関東中洪水○八月三日谷中法住寺開基了碩和尚寂○八月十五日下谷坂本小野照稲荷祭礼半〻繰物ゟ出ル生駒中将ゟ○八月十四日宮儒土肥元仲卒名元成号霞洲称源左衛門市谷ゟ出宮殿○九月廿三日より深川八幡宮焼内ゟ大義氏勧進能奥州○田村元旋ゟ湯島ゟ出て物売舞を催ス翌年又神田ゟ舞台ゟ○真先稲荷社流ゟ出て田楽茶屋数軒出来て繁昌す○十月廿日金剛山柳川直政卒年六十七○十一月廿八日儒師桃東園卒名道隆半為弘福寺ゟ出宮殿○十二月廿六日浅草弘明町より出火して大火ゟ及ぶ御蔵ゟ焼ル〻

同　八年戊寅

二月八日より本所ゟ開帳○二月より護国寺ゟ下野出流山ゟ観世音宮殿○二月十五日ゟ田向院ゟ常陸康国寺地蔵観世音開帳○同寺ゟ出流海老原ゟ善光寺弥陀如来開帳○三月朔日より毎日延

浅草報恩寺に詣し内八尾州坊大信寺宝物を拜せしむ○浅草若立寺に
佐渡國州私実相寺朝日祖師霊牌○牛込原町妙光寺に豫州沼津
妙海寺祖師霊牌○麻布某教寺に鎌倉松葉谷妙法寺祖師霊牌
○湯島社地に比叡山坂本来迎寺弥陀如来開帳○廣尾天現寺
毘沙門天開帳○市谷八幡宮内に遠州浜松大福寺薬師如来開帳 理逸仙人の作と
○赤坂玲降稲荷開帳○麻布下屋敷に福寺薬師翻町九丁目寅薬師開帳○
三月十日夜巳の時霊峯富士大川端迄焼亡の時残火○六月日蓮宗師里
村昌迪卒五十五○八月八鮫洲海晏寺親鸞聖人霊牌○九月廿日廿九日迄雷鳴雷鳴○
古暦便覧再刻 東師ふる芳氏元年の安永 暦迄ふる国月氏ふるあり○十一月深川霊雲院河開剣 開山故光 未出おる本堂山
門田珠稲荷社外悉く成就也 惜外宝暦十年二月六日の災ふ六八 此時林氏戻り迄ありしと

宝暦九年己卯

七月国

二月十日より田内院に出羽湯殿山本道寺大日如来開帳○二月徳不小安こ火
災なり○三月十三日より浅草観音寺に薬師如来開帳 三十二枝徳付曼荼羅本道成就の徳尚ふる
ふ五一を絵せしむ○二月十七日御人岩本乾什卒 海見彩千紫見と号時世雲斜や八十年の祝り地外こ
るハ氏乾什ふ比世ふ伝て〻ふ彩の去まる住こ去ふ記せりふのれ〻声曲新繁ふも示張て去る徳一つこの
氏霊御の協正井為氏の祖より井坊人といるハ彼家の祖ふて井為正朔と号し仏塔を乾什ふ学ん
て井坊人と号氏氏乾什の世ふ彩まる
夜自ら混〻と伝一〻りのふりといつり ○三月十日より東本願寺座敷に越後高田本
願寺宝物川越の名号ふを拜せしむ○三月川端明長寺石記寺開帳○芝
金杉圓珠寺ふて千住日光ふる鬼子母神 清正 不動 霊牌○四月八日より本所弥勒寺
薬師如来開帳○同日より下谷法養寺に鎌倉比企谷妙本寺ふる祖師開帳○四
月十日より廿八日迄鬼子妙義山権現開帳○浅草観音堂又ふ田薬師内に
く奥州御洋虚空義并賓頭盧尊者開帳○米穀豊饒なり○六月廿日
服部南郭卒 七十七才 名元喬 称小右衛門 号芙蓉 嘉氏男 惟良 惟恭ハ父ふ先七卒ハ

善福寺親鸞上人の海上人像開帳○同日浅草玉泉寺にて相州星降天拜祖師
開帳 星降妙純尼 此尼は三度剃髪の尼なり
彩絵の像出あり○武州大石横大聖寺不動尊自坊にて開帳有○八月念珠札
年迄續く○九月十六日駒込神明宮奈礼産子町より出し祢り物を出し其後明和比
平賀源内溪湯殿より物産の会を催す 明和十二年 又会あり○九月勝日法恩和尚駒込圓京寺
不寂庵 諸州を巡て会伝を進む帰依の道俗黙し難し 東九郎宗の伝職とありしが後高野に不寂せり其間上
人得阿弥陀仏と号しをの頃徒となり宗旨の頑徒となり
後宗旨会あて大字六字の名号をもつて世の一字六字二字伝授丈十二字除悩二字名号
川除川るゆゑいて講説あり諸国の大衆都鄙の貴賤日毎に群集し其徒
を作ぐ 後師へ東海道東の孫の人之明和五年十二月十日化寂あり八十七歳と
日宿松蔭寺に其舊跡を神機獨妙禪師と謚す

寛暦十年庚辰

正月二日日蓮宗祐天寺二世祐海上人寂 名愚堂 号指蓮社信誉○二月七日夜八ツ時赤坂

今井谷より失火して麻布辺日ヶ窪雑色十番綱坂三田寺町伊皿子坂より
田町不川海を不至る○同月六日戌刻神田旅籠町壱丁目明石屋と云る呉服屋
より出火乾大風佐久間町辺いろは及び浅草辺馬喰町本町日本橋江戸
橋辺霊巌島新川辺深川一帯洲崎本所の辺迄焼亡世に云る聖焼天永代橋彩大
橋も焼る七日巳刻鎮火○同日芝神明宮太鼓楼の向湯屋より出火濱松町庁門
前金杉芝田町辺本芝海岸迄焼亡○三月十五日より四月六日まで六阿弥陀
不残開帳仏基并千五十年忌○市谷八幡宮甲冑神像開帳○五月稲荷
社地まで越後高田奥日山 祥信る 毘沙門天開帳○三月廿日より回向院にて美濃
国稲岡誕生寺国光大師開帳○糀町八法まで総列伝会松林寺千手観
世音開帳○四月より八月迄旱天○七月廿八日英一蜂卒 狩川法橋と中 本竜院に葬 ○五月
二日書家喰溪平震卒 平震元町 ○九月十九日鳴島風卿卒 名信遍字信徳称孫左衛 七十一歳本所法恩寺葬

○十一月十日儒師稲葉迂斎卒 七十七歳 名正義 孫十左衛門の弟 竜光寺の住職 男を黙斎と云ふ

宝暦十一年辛巳

正月廿五日圓光大師五百五十年忌○二月朔日より業恒町某師内にて信州善井郡金脇なる不動尊出山釈迦如来開帳○三月朔日より浅草善立寺にて甲州遠光寺日蓮上人像開帳○三月十二日より本所川某師如来本堂修復出来身開帳○同月十日より本所法恩寺にて釈迦像開帳○同月朔日より田町院一言観音寺開帳○同月十日より洲崎弁天開帳○同月八日より十七日迄新吉越金仏院中ゐる張見世并逗留養○同月青山善光寺阿弥陀如来開帳○三田八幡宮開帳 綱が金札にて 天満宮ふ出せり ○霊巌島円覚寺檀家稲荷社某師如来開帳○四月八日より浅草玉泉寺にて下総国塩谷法宣寺祖師開帳○浅草唯念寺にて下野国高田阿弥陀如来 若光寺 一体分身開帳

○青山久保町宗徳寺十一面観世音開帳○千駄谷八幡宮にて武州入谷邪山口村来迎寺 秀衡守本尊 車還三尊弥陀如来開帳○同月十五日より相州江の島岩屋弁才天開帳江戸より来詣多し○五月他阿師慶紀逸卒 六十八 谷中竜泉寺ふ葬る 辞世 八年て世をあるあるとも弥陀ふ向て中ふけゆく ○六月金彫工大津尋甫卒 四十二 法名八右衛門 ○八月十七日堺町中の芝居 楽屋 より失火堺町葺屋町焼 中村勘三郎が芝居の芝居中ふ焼 ○九月三日官儒中村蘭林卒 名明遠林深義 谷中妙林寺ふ葬 ○九月廿四日金彫工彩濤楽喜卒 六十一 ○十一月廿七日儒師井上蘭臺卒 名通熙 林嘉猷 谷恭雲寺ふ葬 ○十一月二日俳人松木淡々洒花ふ卒 八十八 ○十一月廿八日親鸞上人五百年忌○同月村長泉体院開創堂宇落成 三篠山去 人傍ふ成る大去和尚浄土体の一寺を創せんとの志願まて入寂の後遂ふ成ふ如百計千辛て門越蓮聚る主教ふ上人力を勢を終ふ成就すこの時住職等寂徒門和尚及徒の寺えあり法つ師業状記一巻 ○十二月五日金彫工稲川直光卒 林文四郎 弟子彩雲堂 棒状あり

同 十二年壬午 四月閏

二月日本橋南町ゝ焼亡○四月より東本願寺常陸國水戸殿祇山邸
入寺宝物を洗せゝむ○同月より深川浄心寺甲斐小宝妙法寺祖師開
帳○同日より田向院内上總國小田村称念寺鹿吹彌陀如来開帳○同月ゟ
浅草西福寺薬師如来天宝物ゝ開帳○麻布一本松大法寺大黒天仏像大師の他二面開帳
○高輪如来寺ゟ多摩郡日野村一石山十一面観世音開帳○高輪東
申堂開帳○豆州那須根安穏寺日蓮上人牛迎宗祖ゟ書開帳○昨年
山王祭礼延引今年六月執行あり○七月より永代橋成田不動尊開
帳○伊豆子長寿寺ゟ越中黒部谷寺法華海中出現法花経紺地金泥大
曼荼羅ゟ拝せゝむ○谷中大行寺ゟ総州大野法蓮寺日蓮上人像開帳
○牛込圓福寺ゟ豆州加殿妙國寺日蓮上人開帳○浅草新寺宗安寺七
重親世音開帳○浅草極楽寺真仏阿弥陀如来開帳○十月三日書家祇園
耕山卒名雅通称甲四郎　号建侍ゟ不義○十月亀戸龍眼寺不殊堂の冬ゟ安置仏莊厳郡
清水清谷ゟ不立ゝ係之

寛暦十三年癸未

二月十五日より、亀戸龍眼寺不殊堂聖徳太子開帳○二月より深川玄信ゟ
阿弥陀如来開帳○二月廿四日より三月廿六日迄亀戸天満宮社殿建立成就
ゟ開帳○三月九日より押上大雲ゟ観世音開帳○三月廿三日より田向院
ゟ上州大同山聖徳ゟ子開帳○同月廿八日より深川浄心寺ゟ堀の内
妙法ゟ祖師開帳○四月朝日より芝如来寺ゟ河内壺井八幡宮開帳
○四月七日浅山町より出火数寄屋橋門ゟ迄焼之○六月十日山谷聖
田明神祭礼浅草ゟ町ゝより出ゝ始ゟ出ゟ其後ハ休む○六月廿一日
亜家將野祐清英信卒号如満名号平七郎　深川浄心寺不義○長崎より佛ゝと号ゝ生年ゟ

よりて癸酉ふいむ日を撰びしとて一枚摺を賣出す○六月俳優荻野八重桐死よ祭中洲ふ地碑身の陰り魄を立てんとて川下り立洲を一義入弱死を平賀鳴渓根ゐまといつる者紙をつくりて生涯の業○八月廣東人參高麦を止めぬ○九月朔日日蝕暦面ふ脱せりとい○九月神田明神祭礼此年より延ひ當月執行○十月神田伝久間町壹丁目岡田治助朝鮮人參座ふ命ぜらる○十二月十九日書家篠田弘休卒名真貞号金溪陸人小日向金剛墓ふ○古今相撲大全摔行木村政猪著○志道軒傳摔行風来山人戯編

此年間紀事

日暮里ふ森稲荷三峰社の外ふ新ふふ勧請ス○塔上ふ塔ス仏光院赤羽根川端ふ移る○目黒幡随ふ焼門窟出来る○宝暦中浅草山の上人本願ふよりて江戸英近生合ふ弘法大師八十八箇所系始る大進坊祐盛ふ始る○板橋

稲荷ふ宝暦九年迄滿年達子の町より花出し繁物神輿を渡しるが甚盛中絶せ○小野照崎明神祭備年神輿出し繁物を出しるる宝暦七丑年より中絶せ○宝暦末より天口彩田社より系請多し社地より系を賣始請人来てもとせ○根岸田光る庵中藤の花盛の頃貴賤遊観多し○婦女霞を廃り書紙ふて張る日傘ふる○夏合羽夏ふ事羽織漬く始る○土佐節浄瑠璃廃れ江戸節ふ流ふ大坂の義太夫節京の薗八節ふ流ふ浄瑠璃ふる○卜者平沢左門ね学者神孫登軍書講談師深井志道軒滋野瑠竜彩成田蓬仙ふ行る蓬仙ハ蓬莱仙之○此頃大盗根松ハ六七十被なりしよし○壁塚終よいり○旦那のねつる高茅と唱て市中業を賣出なり○浮世絵師鈴木春信石川豊信秀龍と号六拝図飯盛の図中て称平七郎鬼丸其外多し○好事の輩古物を集る事ふる

○此時代世上の風俗をのぶる仮名本(かなぼん)行れ数多(あまた)梓行(しかう)しけるを擬て評判記(ひやうばんき)を作り千石篩(せんごくどをし)と號(なづ)く其内蜀山人の水滸論を別て賞(しやう)せり○慶紀逸(けいきいつ)武玉川(むたまがは)といふ俳書十六篇をつゞりし人の要柄(やうへい)とせし川柳が柳樽も是より出たりと云○山本静観坊(じやうくわんばう)といふ者下手(へた)談義(だんぎ)といふ草紙をあらはして世に行る載(のせ)るところ戯文なれども教戒(きやうかい)の意を寓す此人の著書十三部程あり　著述目録に出たり墳墓ハ回向院に在り此下手談義行れしかバ他人の作にてこれを追て後巻下手談義下手談義聴聞集辻談義なといふ草紙も出たり○芝三田（俗称三角）賤妓中川と云者盗賊（とうぞく）をなしけるが捕はる此事も世にいひすぐしたりのと云けるや○永代に曳尾庵(えいびあん)云此庇河岸をよりて左の方小番場(こばんば)川端に石工程それが家の前に男女の石像あり是ハ宝暦の比亀戸に踊座(やふざ)なりて其家の夫婦の石像也といふ後年零落(れいらく)して流浪(るらう)する子孫もありくありしにや阪に来る(とうきさ)後其後(そのまゝ)風雨(うろ)露に晒(さらさ)れしを文化の末庇(ひさし)を寄(あおひ)せて賽銭(さいせん)箱(ばこ)を出(で)しより夫婦(めをと)石と号して何る謂か立願する人多しと云く○宝暦三年の比より大文字屋の

大かぼちやといふ童謡(どうえう)行る　吉原京町大文字屋市兵衛といふものかぼちやといふのごとき故人がぼちやと異名しける故自らかくうたひて人を笑せけるとぞ　蜀山人仮名世説に見えたり　○寄合茶屋浅草並木茶屋(あぶちや)深川西の宮(みのや)行る○操芝居(あやつりしばゐ)盛に行まより宝暦の始豊竹肥前掾絶(たえ)しかど東次が芝居ありて尚繁昌しけるさ福内(ふくち)鬼外(きぐわい)　孫平賀源内　浄瑠璃あまた作り出せり何れも佳作(かさく)之　明和七年に作まる矢口渡の上るり操にかけし殊に繁昌せり　○宝暦中西村重長が絵本江戸みやげ図中両国涼の景に水茶屋蘆簀(よしず)の屋根なし見世毎に行燈を並て納涼所(おんまうりやうところ)と記(しる)せり吉原五十軒編(あみ)笠(がさ)茶屋に編笠を釣(つ)るしてありし行る女子帽子(ぼうし)をかむる浅黄廿軒茶屋のなんとう⌒屋✿屋などなり○婦女の衣類丁子茶の色を好む花簪(はなかんざし)をやる朱塗(しゆぬり)の櫛（今ハ旭(あさひ)の櫛）といふ象牙(ざうげ)の笄(かうがい)も行まへり○硝子(びいどろ)ハ外国のものなるを蘭人(らんじん)持渡り中古長崎(ながさき)にて製せる物を得京大坂に伝しを近比東都に其職人(そのしよくにん)多く出来て万(よろづ)の器(うつは)を製(せい)し活業(かつぎやう)とする者あまたなり曳尾庵(えいびあん)云く

ビイドロを紫宿なりなどホルトカルの詩なりと○横山町三丁目孫左衛門
といふものこれを田舎に用ゐる稲こきの歯を造作なりしを鉄にて作り
なるべし○圖書集成一万巻康熙帝の自撰之宝番十四年舶来して
官庫におさめらるるよし　安齊湯茶ふるくなるを改元沿革あるべし

明和元年甲申　六月十三日改元　十二月閏

二月十六日朝鮮人来（正使鄭尚淳副使李仁培後事略仁来年彩る旅宿）三月六日上野より曲馬なり清
人を病す○二月より月白不動なる閏暦○深川永代寺にて京栗田口青蓮院宮に拝を不動
則経なる祖師開帳○深川永代寺にて京栗田口青蓮院宮に拝を不動
三条小橋作れ橋稲荷の祠親鸞上人雑製像開帳○茅場町某師内にて
奥州安達原人肌某師如来開帳○田町院にて武州橘樹郡山に観世音開
帳○月某不動なる内にて杉戸大山雑蔵子安地蔵なる開帳○三田妻日明神

開帳○田町院にて伊勢山田八門寺弘院如来（古利支丹遺治幡随院感得）開帳○浅草報恩
寺田新張町より出火小風烈しく蝋燭町多町堅大工町新石町鍋町船治
町西側皆川町永冨町杉下町孫兵衛町二丁の町三丁目中張町二丁目中石町本
町三丁目一石橋迄焼ける夜八ッ時過船治橋内に飛火ありて河岸焼ける
韓人遥拝のうちにてあり　○二月中旬平賀鴻漢（絲漢内）火院布を工夫し創て製し
氏先火不忍師せしとぞ
中一番茶を作る（猩猩茶雲母茶さらし質和らかにして火気ゆるく通る故なり）
とぞ今年三月紅毛人来朝なる官備青木某・斎先生対話の序紙墨
紅毛人より出せる火を器に入れ世界の国をあてもの織法をおしえ貴賤しけるとぞ
後その多器を　公方様より官府より名物（絵りもひる十二月出島より清人の見物来れりとぞ）
時人よりする宗羽織を作られと火のるものの織なるべ大低三尺ほ限りしとぞ

火完布（隔火包紙之銘）

火浣之布自古有名彼妄造説臆度意量水皮斯謂氣毛南荒
或果誕理謂傳者妄滓溟造物寧可推窮陽中有陰陰中有陽
入火不化柔能制剛昔彼西戎今我東方織成素縷過以銀
鑛一片隔火百姓観香書堂清供舗房風情　大日本讃岐　檀溪平賀国倫創製□□
明和甲申秋八月

○今年五月より明和六年九月まで江戸日記村太郎右衛門普請成　享保の末木食某秩父より出て江戸所々の石仏を開する事五年なり其後江戸に再修する
森田盛義を勝とし小松ありしとぞ
建寄舎を建る　右申の三月牛込の桂木やまと和泉屋忠兵衛
橋義大師番所大久保豊後守下やしき稲荷社に清瀧集す清る人
蕎麦切を伝ふ　八月下旬より清人止む○深川三十三間堂再建　宝暦十年
実後建立
あり　○七月九日より十月十日迄護国寺にて秩父三十四番札所観音巡
拝○秋加賀藩の測量深川町一家を移し一廓を野辺又畑に作りて新たに長屋を造る
九月十三夜　これより九月の雨やゆくさのころ雨降ること多し　生涯測
○十月廿二日浄瑠璃元祖富本豊後守
右文死　年九十歳なり　法号修院日義居士
○十月琉球人来朝使横谷山王丸　王子の名を朝恒と云ふ和人のごとく
載るを一ツ　二ツなぐ　九月十三夜把後品川浦とりふすすして所々のみを見出せり
秋毎よりこれを出す

不二　人ごとにいくかくしんとの歌ふ事あるべしの事なるべし
祝の心を　波風もなきあるの男の法代なれいなとうくぬ日の本仕里
○十一月廿八日俳人浅井春宝卒　七十二才　号徳翁
○十二月町火消の内浅草御蔵通十三組に新吐水を渡しあり　生涯の組は氏子
浅草に出来しなり
○十二月廿三日夜五半時神田関口町より出火して神田町く新焼明七ツ時鎮
○閏十二月十七日明六時浅草田町より出火して大川端聖天町迄新焼せり

明和二年乙酉

二月日暮里修隆寺太神宮本地釈迦異子母神祖師開帳○谷中四運寺
祖師開帳○三月七日篠塚師深井志道軒終　名紫山号空一堂と云ひしが知足院の
浅草花川戸に出家となり所々住浅草寺に
して絶倒せしむ一座ふ伝と女あれば必識るの事甚しく日々多くの銭を得るといひども大ぶく酒ふのみ
の銭一をもつぎ生世の日自ら肖像を画く持ふ上七銭言を出つて人ふもつて元ゆ一笑と云ふ低再
甚だ今年八十四才ゆへ終まり浅草寺中金剛院に葬る一男一女あり男を三ツ谷とりて神仏を表

彩三郎と称しるるこうん　名を彩が奇とそはしへ　辞世　朱とりぬつとまれる月日さく西とんく　ゑもゆ

又同時ふ濱野陽就軒といふ講釈師も世よ彩まりしを男甚蔵父の名を絶て

舌耕せり○四月日光山御神忌万部御法会○癩戸村ゆく鉄鉢を鑄さしあ

らる○六月より平井満之鑄つといふ者深川冬寿の東ふ沒除土手長十七町除宮

一丈二尺安ちるる潴武蔵を築立彩さふ廿万坪餘の地を宝化壱成年七月廿比

日より恒を焼始むるの所を平井新田といふ江戸よりる品物の人駄ゑ比が安永

ふいとりるるもあく止とり　料理茶屋出来て彩まとり　○秋葵切そやる○七月

朔日より田向院ゆて武及府中源大寺尼除元三大師開帳○月日より永代ち

ゆく鼓及富士浦野厚糸号我八幡宮　拡成時鼓　神像玉渡明神　虎御前　開帳○月ゆ

日より田向院ゆて梅田村石動号開帳○七月ゆ三田長栖ち歯吹浦弘院茶

毛開帳○八月三日大風白深川辺甚餘家上へ水変る○八月十六日二茶判若ち鑄

死八十余才　○芝浦より一丈余の魚上る後両國橋畔ゆて見せ物ゑ色白く鱗ゆし

鼓の新ち名をマンボウとち○九月五日銀通用始る○九月七日僧師長井嵯州

卒名孝先称郡司史　ち鳴東禅るふ葬ル　○九月白隠禅師神奈禮九月廿三日ふ沒る神樂濱

る石の町く横町のゆ切神を彩ひふ俗ゑ歯年より柵を結ふるふ成まり

○十月廿六日僧師木村遠茶卒名貞賢字君恕　日号海辺ち葬ル　○十一月神田今川橋ふ左右火除

土手再奥○十二月神田佐久ち町ふ醫学鈴建多紀氏基立　○十二月四日夜明白

蕉より出火ゆ七時迄続る新焼多し○十二月廿九日書家関思恭卒六十九才

号風岡称源内也石川

称名寺ふ葬ル

明和三年丙戌

二月朔日より永代寺ゆて三州伊賀村八幡宮市地茶師如来開帳○二月

廿日より河義前花徳院ゆて三尺碧海郡上宗村遍照院弘法大師開帳

○二月廿九日堺町繁右衛門の宅より失火して南隣の芝居新櫓　大風ふき
しに焼廣がり因獄の辺まで焼る○三月十二日下谷溝に家より出火車坂下まで
焼亡せり○四月朔日より同月不動尊ゆへ下野國岩船山地蔵尊開帳
○同日より祐天寺弘法如来祐天僧正像開帳○同日より湯谷金毘羅八幡
宮開帳○文久保法華寺七面明神開帳○四月朔日より田向院にて大和
薬師光尊光尊天満宮本地十一面観世音開帳○高田宗八幡本地佛開
帳○谷中宗林寺舟形弘三帝尊鬼子母神祖師天満宮開帳○幡ヶ谷庄屋
ゆへ不動尊開帳○芝花宮社地にて武州多摩郡國分寺薬師日光月
光并開帳○七月六日洪水小日向小石川市谷の辺にて水嵩壱尺
○霊巌寺塩地にて盆踊り菊蔵尊とりよ○七月朔日より田向院にて
川崎真福寺薬師如来開帳○同日より田向院にて祐天僧正親筆の浦島

大神守佛親筆尊像　弘法大師作　開帳○同日より浅草寺観音院にて弁才天
腹籠尊像開帳　分一百○同二日より浅草寺境内にて紀伊加太淡島明神本地
虚空蔵菩薩開帳○護國寺ふくろ殿河留士山宗人寺来迎三尊佛開帳
○浅草榧寺にて上臈甘樂彩白井源空寺薬師如来圓光大師開帳
○麹町紙屋寺祖中池辺ゆ牧様の萩を載せ見より毎年盛の沢巻殖
遊覧の地と成る　寺阿曇養師の説ゆへ時代生尚寺の辺ゆ盗賊能個して沢来の人の衣類
を剥ぎ取る故剥ぎ取る盗賊を殺して萩を載て萩を載ると呼しめしと
いひつたへしや○十一月六日俳人御茶府茶瓶亭　五十文弱辺地性ゆ茶瓶亭俳諧
名を称ず　一日ゆ五千句身ゆせ一より五千迄と号

明和四年丁亥　九月閏

正月元日未八刻より申刻迄日蝕二分○四月朔日より永代にて江戸中生
島弁才天西宝札所親世音開帳○同日より深川海辺弁才天開帳○同日より
田向院薬師弁才天開帳○四月より同寺にて懐旧堂　金毘羅　作現し　弁才天

開帳○四月より谷中本光寺祖師開帳○猿町雑子宮稲荷元三大師一英開
○和泉侯の屋下の宮弁才天開帳江戸より来詣多し○関東川々洪水
○四月九日駒形町より出火浅草観音雷神門焼る二神像金龍山の類も
悉く○真先神明宮の地なる辻大納言家長卿御石碑あり○菅神
の像をとりて勅請なり○四月十二日儒師赤松太度卒名弘孫なり○六月八日儒
師服部仲英卒名雄南郭の○七月廿二日儒師太藪殘塘卒名長真孫名名崇
表字なり
七月廿四日神陰流剣術師長沼四郎左衛門国々卒八十七歳習運なり○八月三日画人
浜辺渓水卒年八十名俱孫表義原市名弱なり孫
男と云説と云るも画を嗜み手文改中卒也○八月十日富田宍八幡宮祭礼
産子町くより出し練物を出す神楽坂の御旅所一波一まつり出る中絶也
○十一月廿日儒師赤松洞酔卒名舊邦太度の父
庶市名弱なり○秋繁切切る○十二月五反張
ののわ登ふよりて金を為ふ十二枚の通用と成る○十二月書家飯田百川

卒名規潔孫深川邸　廣深の門人にして後董其昌を学ぶ近世
西久保青物市の発　董帖を摹する多し人となり

明和五年戊子

正月廿七日英一蝶が養子一舟卒称伝三郎名信稚号東窓為
二本松義教の中頭家院に奉仕○二月廿日より
王子権現五子稲荷の神開帳○二月三都とも浄土真宗の怪しき法儀
を行ひしものと刑せらる俗に門徒と
世音開帳○三月十六日より永代橋○三月千駄ヶ谷聖徳寺如来観
廿日より三田八幡宮開帳天宝年中名れたりと○田向院にて尾州野間の海大
御堂地蔵尊開帳○三月大師河原村百姓太郎左衛門砂糖を製し弘む製法
を受る者多し紀州名不図命ありの比より紀州府城の西溪雑賀孫町なる雑賀孫何某製
法を伝へて始て在田郡小豆島村の田畑に甘蔗を植ゑ
伝を受ざる者なしとの事製法の事平賀源内溪の物類品隲に詳なり
砂糖に形り新家の物とのべたり今は製法和製の物なり○四月朔日
より芝弘法寺祖師開帳○四月六日暁八ツ時吉原江戸町二丁目より出火大

風まで廓ばかり十軒ばかりまで焼亡ス（明暦丁酉の災後尚所々移りて後火災多く有しが慶長八年より今年廓中のことゞく焼ける九年目なり稲荷社のつゞかず仮宅八丁目今戸橋場山谷新吉越八十七百日の間高麗せり）○六月芝増上寺にて能舞和製を命せられ三都の人集る○六月九日島越明神祭礼神輿を渡す　寺町より出し練物を出す○六月十六日夜四ツ時より大雨（八ツ時休ミ翌日門焼）

○九月十八日寺人村田実郷卒（三十才実海の兄なり　深川本誓寺に葬る）

明和六年己丑

正月五日書家の顕春卒（名言融牛込水町　絶筆を葬る）○三月より浅草五条天満宮の修造ありて下総谷安寺の祖師開帳○谷中本寺なる上総野呂妙奥寺の祖師開帳

○三月十五日より能戸天満宮開帳ありて越後国春日明神本地観世音并不動尊開帳○三月より摂国寺にて大和国島の大峯弁伏役行者開帳○押上春慶寺の薬師開帳○四月朔日永代寺四国琴弾山の写阿弥陀如来天地不動尊ハ自坊より開帳○同八日より湯島社地にて和泉石津大社矢姿開帳（式内の神社と云社人石津連と云この時巫女二人ありて祭礼の義ありて多く出ると云新来奉仕神楽多く画く）○浅草観音堂にて笠交形千葉山十連寺燈魔王四光大師開帳

○四月七日より田向院にて川口善光寺阿弥陀如来開帳○浅草寺境内にて奥州二本松磐石寺（安達原鬼神遍照寺　本尊地蔵菩薩）親世寺開帳○四月十八日より六月八日迄浅草寺親世寺開帳○五月朔日より浅草榧寺にて常陸鹿島廣徳寺開帳○同日小石川茗荷谷村梅雲寺三宝荒神開帳○七月廿一日寺人村田実道卒（実海の父なり　深川本誓寺に葬る）○七月下旬より八月上旬迄弥星現ず長数丈箒の如し（箒星とも云　軌星と云）○八月廿六日未刻より大風雨雷鳴あり人家を傷損す深川三十三間堂倒る○七月廿四日算術師吳部綱泉卒（孫左右衛門　牛込水道町に葬る）○九月十日小石川氷川明神祭礼

町〻より出し絲物を出さず（法度 休む）○十月風邪流行す（其後数日つゞくはなし一大家あれば某を頭に入れて運び下駄を手にする程のことなり）○十月十二日官儒青木崑陽（元祿）先生卒（七十二才号草廬称文花と云 蔵摩羊生他り始られ故甘藷先生といへり因て此碑文を字せり）後の山にあるなり

西面甘藷先生墓とあり右の方に如此彫り

享保二十年青木敦書蒙命種甘藷因人呼予曰甘藷先生甘藷流傳使天下無饑人是予願也今作壽塚書石曰甘藷先生墓

左の方に云

君諱敦書字厚甫源姓青木氏号崑陽元祿十一年戊寅五月十二日生明和六年己丑十月十二日終寿七十二葬于下目黒村別野南

君為儒嘗葬地于此故也

○十月廿六日金雕工濱野政隨（ゆきまさ）終（七十余才 称太郎右衛門）

○十月晦日加茂真淵翁江戸に帰る（七十三才 品川東海寺中少林院に葬る）

武江年表巻之五終

国立公文書館 National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan